

## 今遊びに夢中!!

---

長谷川先生を囲んだ「感動を育む遊びの座談会」と  
「遊びの達人」アフターパーバンの須貝さんのお話

## Ⅱ 今、遊びに夢中!!

私達の活動の意味を確認するために座談会を開催しました。(2001年3月8日 ボランティア会館)

### 「感動を育む遊びの座談会」

参加者・・長谷川幸介先生、太田、石塚、立原、市毛、岩佐、森田、泉澤、桜井、羽根坂、

#### 子ども達が変わった？！

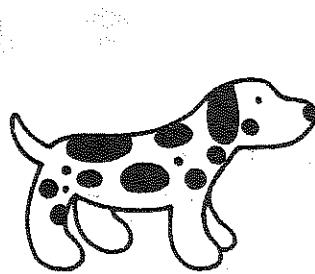
長谷川) じゃ、最初に少し話します。最近の子ども達と、ちょっと前の子ども達と何処が変わったかという事で話したいと思います。幼い子ども達は殆ど変わりありません。変ってきてているのは実は、15、6歳の高校生が、一番大きな変化を表している。社会の影響によって生まれてから15年の間にどういう環境で育つかによって大きく変わらざるを得なくなつたっていう事になります。一番大きな問題点は、子ども達の時間の中で群れるっていうことが出来なくなってきた。

ちょっと前まで私たちは、高校生のことを「でんでんむし」って表現しました。家から出ん、子ども同士のやり取りは、電話でする、大人の話を無視する。ところが最近は、私たちの想像を超えた群れ方をした、その代表がメル友です。子ども達は本来そういう存在ではないのに機械を使って群れるという形をつくることになりました。これは感動を育むって言う点でいえばものすごく機械的な感動というシミュレーションっていうか生きるってことにはつながらない涙や共感なんです。一方肯定的に考えられるのは、自分たちが自分たちの世代である事をきっちり出されてくるようになったのは初めてだと思います。私たちの時代は自我の表現は、社会の中で小さな反抗でしかなかった、でも最近の、あの山姥ギャルとか、電車の床に座るとか、完璧に社会の枠を超えた identity (独自性) の獲得の仕方なんですね。それは、社会が子ども達に強

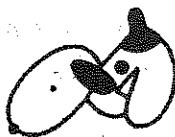
いた結果で、子ども達も心の中は満たされない状態です。

#### 生きる力とは・・・。

小学生になると群れるということができなくなっています。不登校が増えてきています。この一つのクラス、規律を持った集団でさえ作れない。群れる訓練がされずに集団を強要されるのは物凄く辛いものなんです。でも、こどもはそんなに柔ではないから、社会に対応して生きていきます。が、生きる力とは何か、子どもが持っている周りを明るくする力を發揮させることですよ。生きる力がないっていうのは、自分に自信がもてない、自分が生きている事に確信が持てない、子どもだけじゃなくて、お母さんにも増えているでしょ。児童虐待、あれもその一つです。子どもと一緒に生きている時間がとても豊かな時間なんだって思えなくなってきた。大人たちが社会の中で一つのものさしを持ってしまった。子どもに楽しく群れるということを教えないで、学校に入ったから群れなさいといつてもそれは出来ない。大人はルールがあってその中で何とかできるけれども子ども達はそのルールさえ作る暇もないでしょ。子ども集団の中で何処までやつたらいいのかがわからない。かわいそうすぎるよね。で、最近は、そういう心の痛みみたいのは、もっと極端に出て多動だとか、情緒障害だとかがすごく大きくなつて出てきているとか、その原因は何かというの一つにまとめられる状況ではないんです。そんなに社会の現状は生易しいものではなくもっと強烈に



起こってきているから、・・・でも子どもって逞しいから、対応しているから、その対応の仕方がメル友であったり、山姥ギャルであったり、あのパンツ見せて歩くGパン半分ずりおろしてね、そういう事として見てるんだっていう風に思ってもらえばいいです。自分が、自分であるっていう事の確認は、学校の成績でしか出来なかったんです。



### 社会が変わった

ところが、今も此処にいる女の子みたいに、(2歳) 社会との関わりより母子の関係がまだ強いのね。だから発達心理学の見方で全部見えるの。お母さん「みて、みて！」って、で、4歳になるまでに「お母さん見ちゃだめ」とか「絶対に見ないで」とか、秘密を持てるようになる、それが自我の確立。それは、今まで通りなの。だから、私からいうと、子どもは変わっていないのに社会のほうが変わったからその影響を受けてだんだん変わって来ている。その一番の大きな変化があったのが、今の27, 8歳のお父さん、お母さんの世代から下まで。だから、今から27, 8年前に日本社会が大きく、子育て環境が変わったし、子どもが育っていく子育ち環境が大きく変わったんだと思います。だから、遊びも全然変わりました。で、私の携帯に1日に1, 2本メールが入ります。全く知らない人から、加わりませんかとか、メル友になりませんかとか、あれは、おそらく無作為でやっています。だからそれだけ、心が淋しいのと思うし、その心の淋しさに社会は対応して商売を始めるし、大人の方は、それに何の関わりも持たずに・・・。

### 切ってしまった縁

最後に一つ話します。青少年相談員の会があつてそこにガーディアンエンジェルスの副隊長さんが来ていて話したの、渋谷に来ているチマー（チームを組んで非行する少年達）は、間違いなく殺人とかはしない、せいぜいカツアゲや、恐喝で、金品を巻き上げる活動で、急に思い立って刺して殺すとか決して渋谷では起こらない。起るのは、郊外の新興住宅地だ、切ってしまった縁（えにし）、関係が切ってしまった子どものが、その関係を確認するための行為としてナイフで人を刺すんだって、生きている実感を確認する為に刺すんだって言うんです。渋谷とかにチマーとして集まって来る子ども達は生きている実感はある、カツアゲしたりしてね。新興の新しく出来た高校まで、行く道のずっとその間個人の住宅が並んでて、それが全部ブロック塀で囲まれていて、真っ直ぐその道を歩いて行った先が高校だっていう新興住宅があるんですって、それは、その子に言わせると全く牢獄だっていうんです。「そこにずうっといたら、自分が生きている確認をするための作業として、刺すっていうのは分かりますよね、先生」って言われちゃって、何となく分かるような気がしました。ちょっと重い話になりましたけど。

長谷川幸介先生・・・

茨城大学助教授

地域のボランティアを支える活動  
をしながら、1998年水戸こどもの  
劇場の理事に参加

## 子どもと時間

司会…それでは、先生のお話を聞いて感想とか、質問をどうぞ

長…ざっくばらんになんでもいいですよ。

H…遊びってすごく大切だと思いました。

長…遊びって絶対大切よ。

H…でも最近は、大人も遊びを教えられなくなっていると思うんですけど。

長…大人も遊べなくなっているのよ。仕事というものをさしで縛られていて、子どもは、遊んでくれない。妻は、妻同士で遊び場を持っていて、関係をつないでくれない。遊びって何かな

Is…無いと楽しくない。趣味でもなんでも自分のしたいこと、かな?

長…そう、自分らしく、生きるってことだよね。

共感できる仲間がいるってことだよね。遊びっていうのは、違う時間を生きるってことなんです。お金に換算されない時間。それを僕はさらさら時間っていいたんです。こういう仲間がいて砂時計のように流れる時間。どのくらいその中に没頭できるか、深くはいって行けるかっていう事。子どもは、常に遊びの時間を生きていますから、お母さんがそのことを、さらさら時間を過ごしていると思えたらすごい自信につながるけど、ついカチカチ時間で観てしまう。

T…あの高校生が携帯とかそういう機械的なものでコミュニケーションをとろうとしているのは、それは、さらさら時間ではないんですか。

長…いや、それは、一つの形なんだろうと思っていますけど、さっき言った感動を育むっていうことから言えば、何かシミュレーション的な感動。

T…うちの子はテレビゲームが好きで、忘我の状態(笑)なんんですけど。生のコミュニケーションは、やっぱり苦手みたいなんですよね。それが心配なんですけど。

長…機械音の方が響きが良くなってくる世代が

出てくるんですから。

Is…なんだか聞いているうちにやっぱりいっぱい遊ばせなくちゃって思えてくるけど遊んでばかりいると。。。。(笑)

長…何して遊んでいるの

Is…あの、野球をしたり、サッカーをしたり、グローブを2個もって自転車で千波湖へ。

長…それは充分さらさら時間だわ。(笑) テレビゲームって確かに面白いけど恐いのは、ずうっとやり続けると意識下として溜まつていったときに恐らく現実と現実じゃないものと区分けがないところに蓄積されていったものがでるんですよ。だから、それがきちんと調整できる友達関係とかがあれば適度に開放されるけど、閉じこもって1人でやってたりすると溜まつていけば、いつかキレルよ。

## 異年齢で遊ぶ

司…それでは、少し今の(笑)若いお母さんに聞いてみましょうか。

Iw…私は、小1になる娘と現在2才になる娘がいますが、その、お母さんの中にも群れる事が出来ない人がいるのではと思います。で、自分もあまり、人の中に入るのが上手ではないのですが、子供の頃の遊びについていえば、本当に小さい頃は、砂山作ったりして、遊んでいたんですが、小学校に入ったころからはクラスメートとしか遊ばなくなりました。遊び自体は、バリエーションとか有ったのですが、手つなぎ鬼、ビー玉遊び、馬飛びで遊ばなかつたとは言わないのですが、親が近所とあまり関係を持たなかったので、近所の子供と遊んだ記憶が全くありません。で、3つ上の主人に子供の頃の遊びを聞くと田舎で昔から住んでいて、関係が作られていたためか、それはもう本当に小さい子から大きい子までゾロゾロ遊んでいて、要するに年齢関係なく遊んでいた。その中でお手伝いをし

## II 今、遊びに夢中!!

て、一日一日充足感を感じながら暮らしていたって言うんです。ずいぶん遊びの場が違うんだなって感じました。また、仕事を持っているお母さんの子ども達は、学童保育とかが有る。その子たちうちの子は時間や、枠によって遊べないという事お稽古事や、同じ年と、こども達の空間は、どんどん狭められていて他の年齢の子とは交流できないそして、

社会人になって初めて異年齢の集団になるのは少し怖い気がしました。

長…いやーすごく良くわかるね。

Iw…今、子どものお稽古で会うお母さんの中にも、交流を求めている方がいるんです、その方達は、情報網を求めていてそれ以外は、シャットアウトなんです。劇場にいるといろんな年齢層のお母さんがいて、それがすごく私には為になっているし、楽しいんですけど……。



### お母さんの交流が

長…ちょっとさ、今のその情報網って、劇場は、ただの情報網ではないのね？どう違うの？ちょっと教えてくれない。

Iw…先日、0さんと話してお母さんが成長するという話があったんですが、その時はピンと来なかつたんですが。劇場には、子どもに劇を見せるつもりで入ったんですが、その内いろんな方と話すうちに、自分の中で見えなかつたものが、子どもが迷惑を掛けちゃいけないという事にこだわっていたのが、こう少しずついろんな考え方を認める余地が出来たような、親子で劇を観ながら笑って体験化していろんな事ができる。

長…今の話では、そのいわゆる情報網ってのは、子育てのマニュアル的な情報ってイメージで、劇場のは、自分らしさが発見できるようなネットワークっていうイメージなのね。

Iw…そういうお母さん達の情報網は、自分は外出なくて自分の中にある自分が変わなくて外からの情報を受け取って、でも自分は変わらない。長…すごく良く分かった。すごく勉強になった今のお話で

### 劇場は、私達は、何を

司…今のお話に何か付け加えられる方、どうですか。

M…若い人と話していると、自分の経験をどう話せばいいのか、私は、本当に子どもの時から楽しく暮らして来たんですけど。それを伝えるのはとても大切だけど、なんて伝えたらいいのかが分からなくなっていて。12年間劇場をやってきて、今までのやり方や方法では、通じなくなつて来ている。楽しいよって言っている事が通じているのかなって、そこのギャップをすごく感じてきたし、すごく意識改革を迫られています。私の楽しい事は、みんなの楽しい事ではない。じゃ、劇場の中で何をやればいいのか。今の時代だから、考えていくのは本当に大事な事だと感じてるけど。じゃ、どうシステムを考えていったらしいのか。そこに一般の人をどう巻き込んだらいいのかって事を悩み、感じています。

長…今、そっちの人が言ってくれたのがヒントだと思うのね。やっぱり子どもと同じでお母さん方だって群れ方が出来なくなつて来ているのよ。その自分自身も変わっていけるような仲間とかネットワークみたいなものは、いえば、億劫だよね。いやで、うつとうしくて、だから自分で必要な情報だけ入ってくれればすごく楽だよね。だけど、それでは、やっぱり何か虚ろだと思うね。何か、いつも欲求不満がたまつてね。だから、自分が成長しながら子どもと一緒に成長できるっていう関係を創るっていう事になると、ただの情報網ではすまないってことになるんだよね。それを、劇場が出来るかって事が勝負だつていいてるんだわ。

## II 今、遊びに夢中!!

忍者遊びでおなじみの遊びの達人アフターパーパンの須貝さんに遊びについて伺いました。

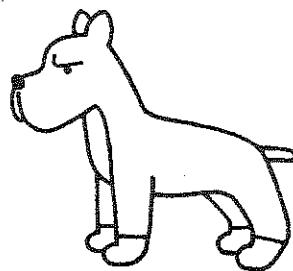
「遊びことに意味なんかない、楽しければそれでいいのよ」

Q 与える遊び・与えられる遊びではない遊びとは、どんな遊びですか？

須貝 子どもは、本当はいろいろな事に心が動いているということをキャッチして一緒に遊びたいと思うが、大人は問題も答えも決めて子どもになぞらせようとしてしまう。そのように与え、与えられる関係じゃなく一緒に答えを見つけていきたいというように遊んでいます。見えないものを見るというのが「想像力」だとしたら、「想像力」がとても大事で、現実に目に見えるものじゃない「ごっこ遊び」が、とても大切だという事です。今、幼児も「ごっこ遊び」をしていない。

Q 子どもの頃にそのような経験をした事がないという人が増えているそうですが？

須貝 「いないいないばあ」という遊びがありますが「これはとても面白いでしょう」というと「これをしても子どもの何が育つのですか」と質問されました。笑い話ではありません。「いないいないばあをすると瞬間に反応する力が育ちます」と答えれば「いないいないばあ」をするかもしれません、そんなのって面白くない。今は意味がないことは、やらない、排除するんです。だから私たちは、意味のないことや無駄なことを逆にできるか、そのことが、遊びの豊かさになるが、それを「かけいなことはしなくていいのよ」と、大人が排除していると思います。私たちがやりたい事は、大人と子どもが向かい合って一緒に遊ぶあうということをしたいと思っています。



Q どうしても輪の中に入れない子どもがいるとと思うのですが・・・

須貝 遊びのスタートとゴールは誰もが同じではない。幼児

の場合は特に今すぐやりたいと感じる子と、家に帰ってから面白いと感じる子と、いろいろな子がいる。だから子どもを信じていく、スタートはどこから入ってもいい。「忍者」も終わるとすぐに「面白かったからまたやって」という子がいます。大人は「よかったです」といって欲しい。そうするとやって良かったと思えるから。皆感じ方が違っていいのだということを大人の私たちが認識する事が大事だと思います。だんだんでいい、と思えば楽ですよ。それが、子どもの事を信じていくという事だと思います。

Q 遊びあう中でなにを大切にしていますか？

須貝 「待つ事・聞く事」。大人は、「どうおもしろい」「こうしたほうがいいのでは」というように待つ事ができない。子どもたちはどうやったら面白くなるのか考えているのにそれをつづいてせかしてしまう。やっと言いそうになると今度は聞いていない。大人が変に構えないで接する事が大切。せっかくのあの時期を一緒にもっと遊びあえればいいのに。子どもと遊びの中でよく話し合い遊びを作っていく、皆で遊びたいとという気持ちだけで、力を抜いて遊ぶ。

Q 最後に子ども達にメッセージを

須貝 遊びに意味を持たせるのではなく、遊びはそれ自体面白いのだと感じられること。一人一人が自分の思いで関われる事が面白くさせるキーワードだよ。